

2012年1月の東北地方の天候

【1月の特徴】

○低温

○東北日本海側の記録的な積雪

(1) 2012年1月の概況

この期間、優勢なシベリア高気圧の影響で冬型の気圧配置が続き、中旬前半と下旬中頃から月末にかけては非常に強い寒気が流れ込んだため、東北地方は低温となった。東北日本海側では雪の日が多く、上旬中頃、中旬前半、下旬後半を中心に大雪となり、記録的な積雪となったところがあった。東北太平洋側では晴れの日が多くかった。

月平均気温は東北地方で低い。月降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で88%と少なく、東北太平洋側で70%と少ない。

(2) 各旬の天候経過

上旬：期間のはじめに低気圧が通過し、その後冬型の気圧配置となった。東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多くかった。4日から8日にかけては、強い冬型の気圧配置となり、寒気が流れ込んだため、東北日本海側を中心に大雪となったところがあった。

平均気温は東北北部で平年並、東北南部で低い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

中旬：期間の前半は冬型の気圧配置が続き、期間の後半は冬型の気圧配置が緩んで大陸から高気圧が張り出した。東北日本海側では期間の前半は曇りや雪の日が多く、期間の後半は晴れの日が多くかった。東北太平洋側では晴れの日が多くかった。11日から14日にかけては、強い冬型の気圧配置となり、非常に強い寒気が流れ込んだため、東北地方では気温がかなり低くなり、東北日本海側を中心に大雪となったところがあった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北北部でかなり多く、東北南部で平年並。

下旬：期間のはじめに低気圧が通過し、その後冬型の気圧配置となった。東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では期間のはじめは低気圧の影響で雪や雨となったが、その後は晴れの日が多くかった。24日から31日にかけては、強い冬型の気圧配置となり、非常に強い寒気が流れ込んだため、東北地方では気温がかなり低くなり、東北日本海側を中心に大雪となったところがあった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。

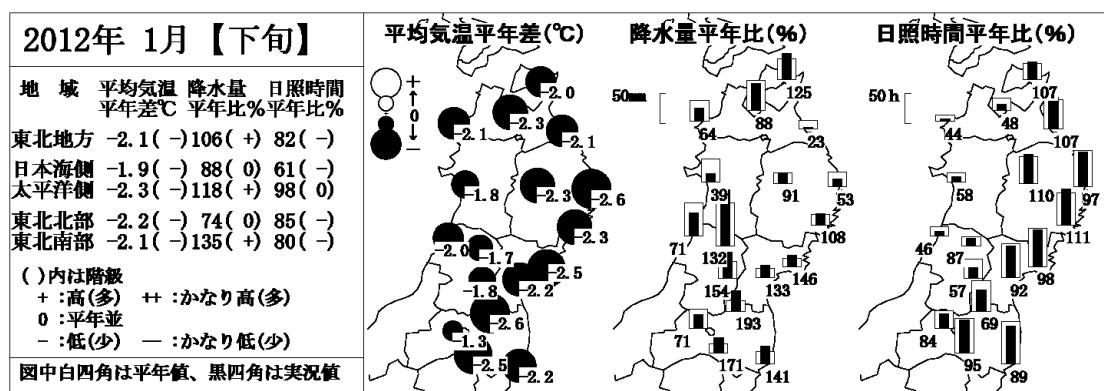
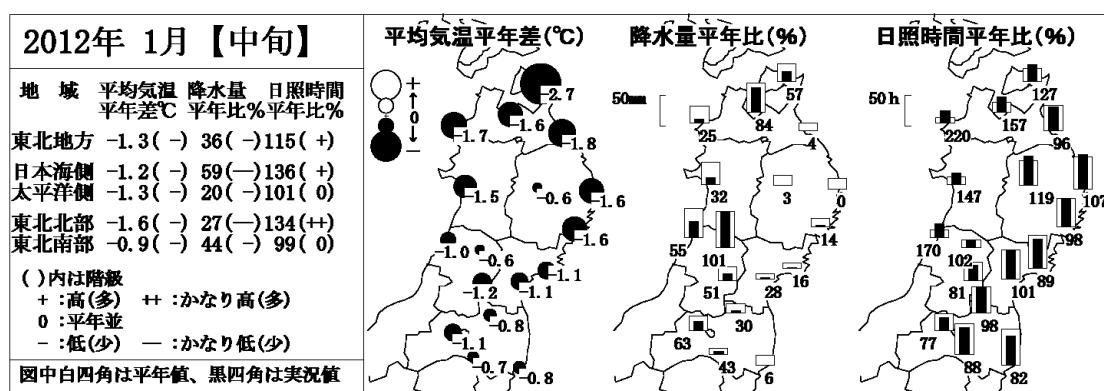
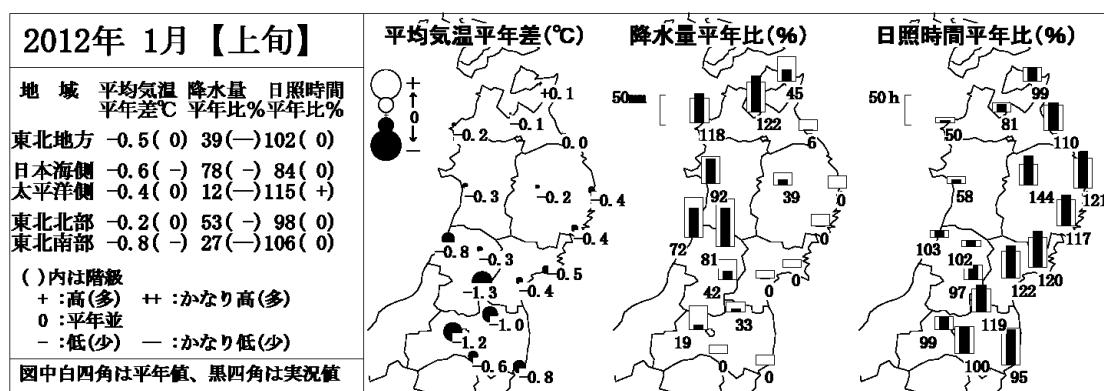
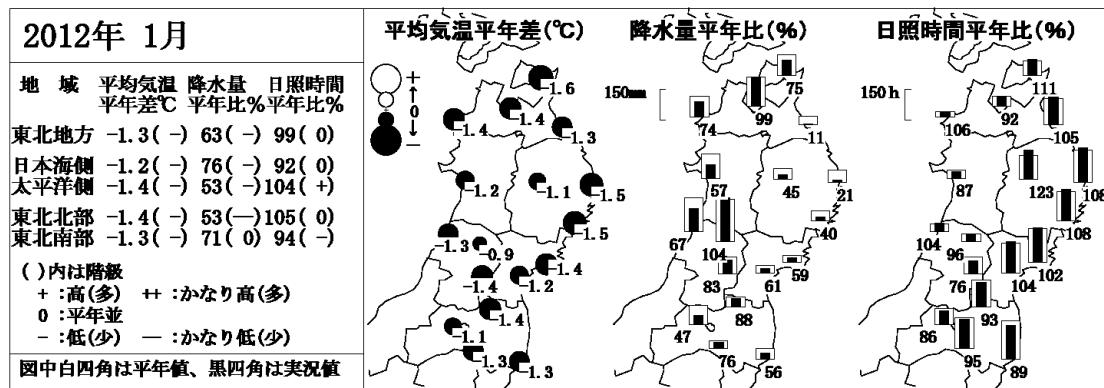
(注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。

細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2012年1月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1981~2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2012年1月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) (°C)	階級	降水量(平年比) (%)	階級	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) (h)	階級	降雪深さ(平年値) (cm)	階級	最深積雪(平年値) (cm)	階級
青 森	-2.6 (-1.4)	-	143.0 (99)	○	24	47.2 (92)	○	244 (225)	○	133 (88)	+
深 浦	-1.6 (-1.4)	-	75.5 (74)	-	19	28.6 (106)	○	117 (110)	○	36 (32)	+
む つ	-3.0 (-1.6)	-	77.0 (75)	-	16	79.5 (111)	+	139 (168)	-	71 (46)	+
八 戸	-2.2 (-1.3)	-	4.5 (11)	-*	2	137.2 (105)	+	22 (77)	-*	4 (17)	-*
秋 田	-1.1 (-1.2)	-	67.5 (57)	-*	17	34.6 (87)	○	94 (138)	-	48 (31)	+
盛 岡	-3.0 (-1.1)	-	24.0 (45)	-*	6	143.5 (123)	+	49 (85)	-	23 (29)	○
大 船 渡	-0.7 (-1.5)	-	20.0 (40)	-	5	154.9 (108)	+	19 (19)	○	6 (7)	○
宮 古	-1.2 (-1.5)	-*	13.0 (21)	-	2	173.2 (108)	+	9 (33)	-	4 (13)	-
仙 台	0.4 (-1.2)	-	22.5 (61)	○	4	154.1 (104)	○	22 (21)	+	7 (10)	○
石 卷	-0.7 (-1.4)	-	20.5 (59)	○	4	168.9 (102)	○	12 (14)	○	3 (8)	○
山 形	-1.8 (-1.4)	-	68.5 (83)	○	15	64.8 (76)	-*	128 (148)	-	67 (40)	+
新 庄	-2.0 (-0.9)	-	215.5 (104)	○	21	37.0 (96)	○	295 (283)	○	167 (101)	+
酒 田	0.4 (-1.3)	-	112.5 (67)	-*	24	40.8 (104)	○	107 (122)	○	37 (25)	+
福 島	0.2 (-1.4)	-	43.5 (88)	○	9	122.7 (93)	-	53 (74)	○	11 (19)	-
若 松	-1.7 (-1.1)	-	45.0 (47)	-*	12	67.4 (86)	-	101 (171)	-	38 (49)	○
白 河	-1.0 (-1.3)	-	29.5 (76)	○	3	143.3 (95)	○	40 (58)	○	29 (15)	+
小 名 浜	2.5 (-1.3)	-	29.5 (56)	○	3	168.1 (89)	-	()	()	()	()

(注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

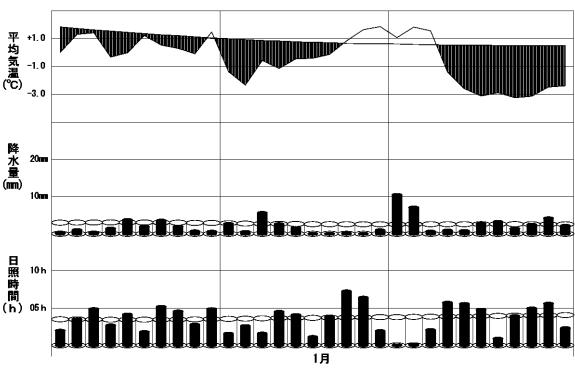
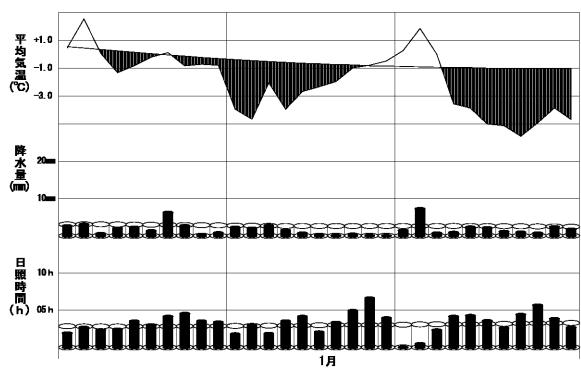
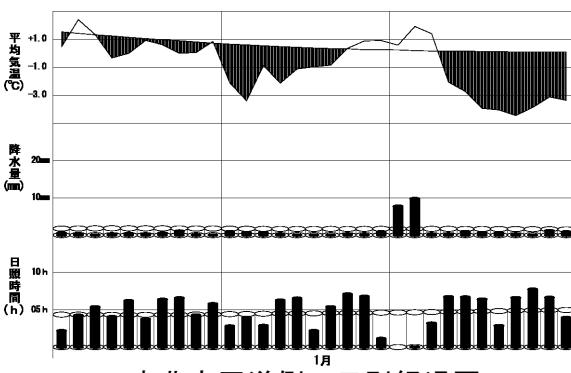
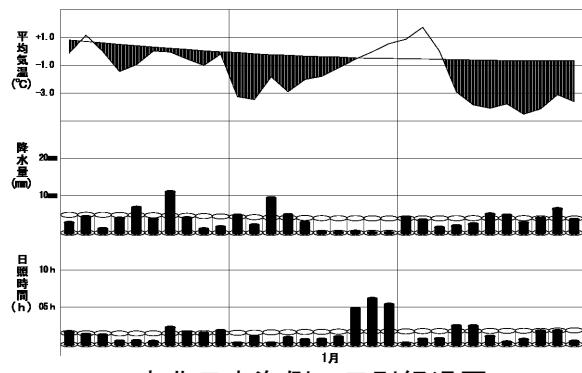
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に)や]がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2012年1月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2012年1月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	八戸	4.5	11	5.0 (1983)	1937	42.8
2	若松	45.0	47	39.0 (1985)	1954	95.3

月間日照時間多い方からの順位更新

3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

3位以内はなし

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

3位以内はなし

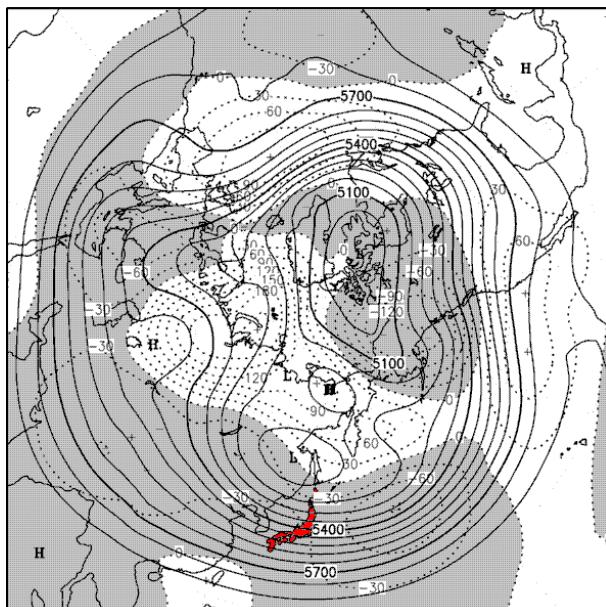
月最深積雪大きい方からの順位更新

3位以内はなし

(7) 2012年1月の循環場の特徴

500hPa 高度は、低緯度帯はラニーニャ現象の影響で負偏差の所が多かった。中・高緯度は、西シベリア付近が気圧の尾根で顕著な正偏差だった一方、日本の東海上は気圧の谷で明瞭な負偏差が見られ、偏西風は日本付近で南へ蛇行していた。また、東シベリア付近のブロックキング高気圧が、極域の寒気を分断させ、その1つがアムール川下流付近に見られた。これらの影響で、日本付近は北からの寒気が流れ込みやすかった。

優勢なシベリア高気圧の影響で冬型の気圧配置が強く、東北地方は低温となった。



2012年1月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。
陰影部は負偏差（寒気に対応）。

(8) 2012年1月アメダスの月最深積雪大きい方からの順位更新（3位以内）

県	順位	地点名	最深積雪 cm	起日	これまでの最深 cm（西暦年）	開始年	平年値
							cm
青森県	1	脇野沢	116	13	108 (1986)	1984	54
		野辺地	60	13	46 (2011)	2009	///
		酸ヶ湯	429	29	391 (2006)	1980	293
	2	弘前	106	31	113 (2006)	1983	61
	3	今別	114	30	137] (1981)	1980	59
秋田県	1	鷹巣	131	30	129 (2006)	1980	57
		本荘	75	25	74 (2011)	1980	32
	2	五城目	81	31	137 (2006)	1980	43
		阿仁合	170	31	172 (2006)	1980	95
	3	湯沢	110	31	172 (2011)	1986	73
山形県	1	肘折	357	31	345 (2006)	1983	255
		尾花沢	221	31	219 (2001)	1980	113
	3	金山	147	31	196 (2011)	1983	101
		狩川	120	15	156 (2006)	1980	57
	3	猪苗代	151	31	183] (1981)	1980	64
		金山	143	31	204 (2011)	2008	///

(注) 値の横に]がある場合には、使用したデータに欠測等が含まれていることを示す。平年値の///は統計期間が短いため平年値がないことを示す。

なお、野辺地（青森県）と鷹巣（秋田県）は年最深積雪の大きい方からの1位となっています。